



子どもたちとワークショップを
する中で感じたことから、探究
的な場づくりのコツやファシリ
テーションのヒントを探ります。



第41回

できていることから始めよう！

きえるって
もしろいかも!?

会場に入れない男の子

先日の親子講座で、初めて参加したAくんが知らない人や場所が怖くて会場に入れないということがありました。お母さんが手を引いて連れて行こうとしても、「もうかえる！」の一点張り。幼児期にはよくあることですが、みなさんがスタッフならどう対応しますか？

僕がまず心がけたのは、Aくんの緊張をほぐして安心感を与えること。会場外から葉っぱを拾ってきて、「魔法のチケットをあげる。困ったときはこの葉っぱを渡してくれたら助けに行くと」と手渡しました。すると、Aくんは少し顔を上げ、「どっからとってきたの？」と聞いてきたので、「見に行く？」と誘うと、お母さんの元を離れ、僕に付いてきました。

これは、僕は君の味方だよと伝えると同時に、会場に入る以外のことであれば興味を示すかを確かめたのです。しばらく一緒に街路樹を見た後で、「お部屋では、いろんなものが水に浮くか沈むか実験をするんだけど、この葉っぱは浮くと思う？」と聞いてみると、Aくんは「うく？」

と答え、「じゃあ、この石は？」と聞くと、「うーん、しずむ？」と答えてくれました。実験に興味を持ち始めたようだったので、「じゃあ、これらを持っていつて実験してみようか？」と誘うと、「これとこれも！」と形の違う葉っぱや枝を拾って会場に入ることができました。

見えない壁を見えるように

会場に入ることができたものの、まだ不安そうなお母さんにしがみつくん。そこで、部屋の隅に椅子とハンガーラックで小さな囲いを作り、「ここはAくんとお母さんだけの特別な部屋だよ。ここで実験しよう」と声をかけました。外の様子も感じられる、囲ってあるけど壁じゃない“空間。完全に閉じてしまわないことで、ある程度の安心感を

確保しつつ、他の参加者とのつながりを感じることができました。

最初は部屋の中でお母さんと実験をしていたAくんですが、時間が経つにつれて、他のアイテムや活動に興味を持ち始め、少しずつ外へ出て活動に参加できるように。そして最終的には、Aくんは完全に全体の輪に入り、最後は笑顔でスタッフや他の子どもたちとハイタッチをして帰っていきました。

僕がしたのは、Aくんとの最初のつながりをつくり、興味の種をまき、他の参加者とも自然に接続できるように道を整えただけ。道が整っていれば、子どもたちはその上をどんどん駆け抜けて行きます。新しい環境で安心感や興味を引き出すことは、子どもと接するうえでとても大切です。今その子ができていることではなく、できていることに注目して関わることで、子どもたちが参加しやすい場づくりにつながりますよ。

鴨川 光

(かもがわ ひかる)

1987年茨城県生まれ。
ELMSセンター主席研究員。早稲田大学大学院教育学研究科修了後、2013年6月より現職。子どもの思考力や社会性の発達について研究している。ワークショップやボランティアを通して子どもたちと一緒に成長中。

